

第7次総合計画の目指す都市像及び基本目標について（事務局案）

1. 目指す都市像について

「人づくり」に焦点を当てながら施策展開を図った第5・6次総合計画における様々な取り組みの成果や残る課題を踏まえ、第7次総合計画においても、引き続き「人づくり」をまちづくりの基本としつつ、若い世代や有識者会議メンバーの意見（別添2参照）を踏まえ、10年後にどのようなまちになっていきたいかを都市像として設定する。

（1）都市像設定のポイント

○大牟田市が、将来どのようなまちになっていきたいかを明確に示す都市像

- ー 大牟田市のこれまでの取組や大牟田市を取り巻く環境の変化を捉え、将来どのようなまちになっていきたいかをまちづくりのメッセージとして明確に示すもの。

○大牟田市らしさをアピールする都市像

- ー 大牟田市の独自性や優位性（強み）を踏まえた視点とし、市民に対して愛着と誇りをもたらすもの。

○新しいイメージの都市像

- ー これまでの「炭鉱のまち」のイメージから、「住みよさ」「暮らしやすさ」等のシティプロモーションにおけるセールスポイントとなるイメージや、イノベーション創出の促進やデジタル化を通じた新たな価値創造に積極的に取り組む姿勢を示すもの。

（2）都市像案と込めた想い

【都市像案】元気あふれる 安心快適な未来価値創造都市 おおむた ～ 有明海沿岸地域のリーディングシティ～

<込めた想い>

- ・市民意識調査における「自慢できるもの」の回答として、毎回最多である地域一番イベントの大蛇山まつりの様子や、若者との意見交換で複数上がったキーワードから「元気あふれる」というフレーズを導き、豪雨災害やコロナ禍に決してくじけない、未来志向の市民の力強さを表現。
- ・「安心快適」というワードで、災害に強いまちづくりや子育て環境の充実、暴力団追放の取組により、安心感がさらに高まったことや、市民意識調査等で高い評価を得ている本市の暮らしやすさを表現。
- ・「未来価値創造」というワードで、現在進めているイノベーション創出拠点や新総合体育館、新大牟田駅産業団地などの「まちの未来に向けたハード整備」、あわせて、シティプロモーションの積極的展開や若者のまちなか活性化に向けた取組などのソフト事業による「まちの魅力のPRと新たな魅力の創出」により、持続的に発展するまちの将来像を示す。
- ・サブタイトルで、有明圏域定住自立圏の自治体をはじめとする近隣自治体との連携を一層深めながら、各自治体における行政サービスの維持・向上及び地域産業や広域観光の振興などによる有明海沿岸地域全体の活性化を図るとともに、この地域を先導していくような都市を目指すという前向きなメッセージを表現。

2. 基本目標について

目指す都市像を実現するために、次の基本目標を定め、各施策に取り組みます。

<基本目標1> 未来を担う心豊かで元気な人が育まれるまち

このまちで人が暮らし続けていくためには、このまちを支える人が必要です。このまちを支える人には、豊かな人間性と時代の変化に対応できる力が求められます。

そのため、安心して子どもを産むことができ、育てやすい環境を整えるとともに、家庭や地域、学校において、豊かな心や社会を生き抜く力、持続可能な社会をつくる力が生まれ、未来の大牟田を担う人が育つまちを目指します。

<基本目標2> 新たな魅力や価値が創造され、人が集い、働き、にぎわいのあるまち

本市には、これまでの歴史で培ってきた産業の集積、本市固有の財産である大蛇山や近代化産業遺産群、鉄道や道路などの広域交通ネットワーク、さらには、有明海や三池山などの豊かな自然があります。また、デジタル化や技術の進展により、生産性の向上や省エネ・脱炭素化など産業の抱える課題の解決や新たな製品やサービスが生み出されることが期待されています。

そのため、これらの地域資源を活かしつつ、デジタルなどの技術導入を推進し、様々な産業において新たな魅力や価値が創造され、人が集い、働き続けることができ、にぎわうまちを目指します。

<基本目標3> 誰もがいきいきと支え合い、元気に安心して暮らせるまち

自助、共助、公助の視点で、様々な主体が連携し、心身や経済の状況に関わらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるような仕組みをつくっていくことが必要です。また、活力ある地域社会を維持していくためには、すべての市民がその生涯を通じて健康であることが重要です。

そのため、誰もが社会に参加することができ、共に支えあい、生きがいを持って健康に暮らし続けることができるまちを目指します。

<基本目標4> 人が行き交い、魅力にあふれ、都市と自然が調和した快適なまち

市民にとって利便性が高く、良好な都市基盤の整備を進め、長期的に都市の活力を維持していく必要があります。また、豊かな自然と都市環境の中で、環境負荷の低減や自然環境の保全を通し、将来にわたって持続可能な環境を残していく必要があります。

そのため、多様な世代が快適で魅力ある都市生活を送ることができるコンパクトな都市づくりを進めるとともに、環境保全行動の促進やごみの減量化・資源化を通じた環境にやさしいまちを目指します。

<基本目標5> 災害に強く、犯罪や事故の少ない、安心して安全に暮らせるまち

近年、日本や世界の各地で大規模な自然災害が発生しており、災害から市民の生命、身体及び財産を守るための対策は欠かすことのできないものです。また、消防体制の充実、犯罪や交通事故の防止などの暮らしの安全確保、生活に必須である水の供給なども欠かすことはできません。

そのため、災害に強く、犯罪や事故の少ない、市民が安心して安全に暮らせるまちを目指します。

<計画の実現に向けて>

今後のまちづくりを進めるにあたっては、少子高齢化や人口減少の進行、市民ニーズの多様化・複雑化など、本市を取り巻く状況の変化に柔軟に対応していく必要があります。

そのため、市民と行政との協働によるまちづくりを進めるとともに、市内外への積極的な情報発信、近隣自治体との連携の強化、自動化・省力化に向けた行政のデジタル化等を図ることで、効果的・効率的で安定した行財政運営を行うことができるまちを目指します。

[参考] これまでの総合計画

第一次総合計画（S.46～S.60）

1. 新しい、住みよい市民連帯のまち
(1)生活を楽しみ、親しみあふれるまち
(2)清潔で、明るい、美しいまち
(3)産業のバランスのとれた豊かなまち
2. 中部有明地方の中核都市へ

第二次総合計画（S61～H7）

1. 魅力あふれる中核都市
2. 活力ある産業都市
3. 生きがいにみちた健康都市
4. 心豊かな文化都市
5. みんなでつくる市民都市

第三次総合計画（H8～H17）

キャッチフレーズ 九州をつなぐ多機能都市・おおむた

1. やすらぎと魅力にあふれる快適環境都市
2. にぎわいと活力にあふれる産業創造都市
3. 健康で心ふれあう市民交流都市

総合計画2006～2015（H18～H27）

キャッチフレーズ やさしさとエネルギーあふれるまち・おおむた

いこい、やすらぐ安心都市

活力と創意にあふれる産業都市

市民と歩む自立都市

総合計画 まちづくり総合プラン2016～2019（H28～H31）

第6次総合計画まちづくり総合プラン 2020～2023（R2～R5）

都市像 人が育ち、人でにぎわい、人を大切にする ほっとシティおおむた

基本目標

1. はぐくみ 未来を拓く人がはぐくまれています
2. にぎわい 地域の宝が活かされ、にぎわいのあるまちになっています
3. やさしさ 支えあい、健やかに暮らせています
4. 暮らし 都市と自然が調和した快適なまちになっています
5. あんしん 安心して安全に暮らせています